

津山市民が燃え上がった津山城築城400年の記念事業が終わり、人々の津山城に対するさまざまな想いも落ち着いてきました。しかし、それは一時的な熱が冷めてしまったというのではなく、確実な底流として、脈々と生き続ける想いの中に合流していったのです。

このような流れの表れとして、津山城の建造物が取り壊された明治初年から現在に至るまで、多数の「在りし日の津山城」が描かれてきました。それは、実際に津山城が存在していた時に比べ、考えられない数に上っています。中でも、大正時代を中心に数多く描かれたと思われる中井昌州作の津山城の絵は、今も美作地域に広く残されています。

絵の内容は、津山城の想像復元図で、天守閣や本丸御殿、さまざまな櫓・門などが淡い彩色で絵画的に描かれています。絵の構図はいろいろありますが、天守の部分や櫓・門などの描き方は共通していて、部分図を組み合わせて配置することによって、さまざまに描き分けられていると思われま

す。そして、そのほとんどの作品で、画賛のようにして津山城縁起が添えられています。例えば「鶴山城図並略説」や「鶴山御城追手略図縁起」など、城の来歴が添えられていることがタイトルから伺えます。その縁起の中では、森忠政の築城から森家の改易、そして松平家の津山城拝領などが簡略に語られています。

また、作品の形態も多様で、二曲屏風や六曲屏風のような大作から、手頃な軸装になったものま

# 津山城百聞録

## ～ 津山城を描く想い ～

であり、その大きさもさまざまです。描かれている津山城の姿は、学術的には正確なものではありません。しかし、これだけ多くの作品が残されていることから、人々の津山城への想いがいかに大きかったかを知ることができます。

慶長8年(1603)、森忠政が美作国に入り、津山城を築き城下町を整備した時、それは戦乱に明け暮れた時代から、平和な時代へと変わる転換期でした。津山の町づくりにとって、新しい時代にふさわしいさまざまな仕組みを生み出していく契機となったのでした。

私たちは、過去の歴史から先人の知恵や克服すべき課題を学ぶことができます。今後、私たちの津山城に寄せるさまざまな想いが一つにまとまり、大きな力となって、新しい津山の町を生み出していくことでしょうか。



▶ 鶴山御城追手略図縁起

※津山城百聞録は、今回をもって終了します。ご愛読ありがとうございました。次号からは津山の洋学をテーマに掲載する予定です

### 1 月中のひとの動き

人口	110,392人 (前月比△77)		
男	52,673人 (同△29)		
女	57,719人 (同△48)		
世帯	43,629世帯 (同△18)		
転入	230人	転出	254人
出生	84人	死亡	137人

(2月1日現在)

広報つやまは、環境保護のため再生紙と大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください



### つ・ぶ・や・き

#### 編集室

「未来をひっぱる津山人」の取材はいろんな人に出会えるので結構楽しい。今回の超新塾さんは「遠方のため取材はEメールで」と思っていたら突然の来津！突然すぎて反応できずサインをもらいそびれたのでした。(残念。和)

津山の桜すべてを紹介できなくて残念。図書館本館では3月15日から「みんなで作ろう津山さくらMAP」の展示をします。この地図に皆さんの撮った桜の写真を貼って完成させてください。新たな桜を発見できるかも…。(2)



広報担当となって一番の悩みだった写真撮影。やっと慣れてきたかなと安心してたところ、今月号は記事の作成に悪戦苦闘。特にデザインやレイアウトなどのセンスの無さを痛感。まだまだ未熟な広報マンです。(＆)



つやま 広報

3 月号  
平成20年  
2008  
641号

編集・発行 (毎月10日発行)  
津山市企画部市長公室 (市役所3階)  
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地  
☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152  
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。  
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>

